

作られるストーリー

世の中は作られたストーリーで展開していると思つて大きく違わない。
税務当局も検察も現場権力機関はおしなべてストーリーを書き、そのストーリーによって仕事を作ります。
都合の良い事実の一部をもつての恫喝は日常のことです。不遜な権力意識の奢りの担当者を生存・育成しています。真実に従う謙虚さは個人や

(有)西川経営オフィスサービス

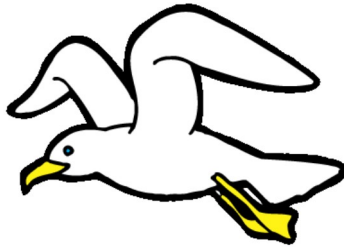
中村会計

事務所便り

2010年9月27日 (月) NO 148

地域から明るい未来を作ろう

組織に存在しないことを明らかにしたのが今回の事件です。ただ確実にあるのは自己や組織の保身が幅をきかし優先されます。
そしてこれまでも責任は誰も追求されません。
ほとんどが現場の志気に係わるとされ擁護されてきました。
今回の大阪地検特捜部の主任検事の改ざん事件はまったく驚きにはあたりません。
氷山の一角と思うべきで驚きを語る上層部は偽善者で、恥ずかしい。
税務当局の修正申告勧奨も、品の良い恫喝?で日常であります。なぜ現場は決定処分をしない修正優先なのでしょう。それは効率優先のため出来ないのです。
また税理士会は税務当局に深く組み込まれています。
少なからず税務権力と戦う税理士もいますが、最初から戦



わず、利害得失の中折れも多いのも事実です。
さらに国税不服審判所の役割は第三者的立場で税務当局が再審する立場ですが、実際には現場の異常な不手際・権利侵害を可視化しない主要な役割を果たしています。
救済手続きを選択する自由を制限している国税不服審判所制度は閉塞・硬直化した社会制度を助長しているとも言えなくはない。
これらはまさに旧自民党政権が役人天国の官僚政治を助長した弊害なのであります。
今、菅政権は確実に「最小不幸化社会」でなく「不幸最大化社会」の実現に手を貸しています。
スローガンは打倒菅政権です。

尖閣諸島沖事件

中国のバックに米国がついたことも今回の早急な船長釈放につながったと思われる。米政府に早期解決と釈放を求められたら、従米主義の菅政権の影の首相である仙谷官房長官がすぐに早急の処置をとるのは当然である。
世界の中で、経済状況や外交策、軍事力などによって国と国の力関係は絶えず変化している。日本では国内事情しか知らず、中国は自分たちよりも劣っていると考える保守層などが多いと思う。
今回の衝突事故で船長を釈放したこと、日本が中国よりも弱い立場にあることが世界中に知れ渡ってしまったと嘆く記事を見かけたが、実際には、この事件が起こるずっと以前より、海外ではすでに中国の躍進に注目が集まっている。
今回の衝突事故恐らく、日本政府は、菅首相が米国から戻った後、中国に謝罪をし、多額の賠償金を払うのだろう。

腹がない菅

日本語に「腹を括る」という文字がある。日本のトップに「腹はない」。
歴史に汚点を残す仙谷官房長官の愚挙は、責任を末端に押しつけが誠に見苦しい限りです。日本人として無様の一言です。
記者会見でのTVでも嘘がありありでした。
我が国の責任者に「括る腹もない」のが誰の目にも明らかです。
腹がなければ残るのは「首」があります。速やかに菅は自分で括るべきでしょう。
草の根運動を市川房枝さんを語る菅なら、草冠をとつた官はそのもの。お似合いです。
暴動が起きないのは大人でありません。未来を見据える気力もないのです。腐った日本にはもう希望もなにもないのです。菅政権は国民を侮辱した日本劣化の象徴の極みですから・・・